

## 第 41 回 旧 R D 最終処分場問題連絡協議会の開催結果

- 日 時 令和 4 年 6 月 10 日（金） 18 : 30 ~ 20 : 21
- 場 所 J A レーク滋賀栗東総合センター 3 階 多目的室
- 主な質疑・ご意見

## 1 前回の開催結果の確認について

- ①前回、地下水の流向についてサイフォン現象も有り得るとの意見があったが、サイフォン現象とは水位が上がってきたときに下がっている方向に流れることだと思うが、それでいいか。

⇒サイフォンは入口と出口があって成り立っています。旧処分場から琵琶湖の方向（北西側）に流れていると考えられる Ks2 層の地下水が東側にも流れていれば、こちら側にも出口、つまり水が湧き出すところがあるはずですが、それはないと思います。この方向で一番標高の低いところは葉山川ですが、葉山川の川底に Ks2 層の砂層が露出し湧出水があるかどうか見て回ったところ確認できませんでした。したがって、出口がない東側に流れていくことはないと考えています、と回答しました。

- ②洪水調整池の pH が高い原因について、植物プランクトンの増殖などが影響していると考えられるとのことだが、原因がこれだから問題はないという判断か。

⇒川や池など表流水の pH は炭酸（二酸化炭素）の濃度に依存します。夏には植物プランクトンによる光合成が滞留性の池では特に活発になることから、水中の二酸化炭素量が減少し、pH がアルカリ側にふれ、例えば、琵琶湖でも 9 を超えるときもあります。このようなことから、洪水調整池の pH は異常に高い値ということではなく、用水路や田んぼで他の水と混ぜるとすぐに pH は下がるため、直ちに生物に影響が出るような状況ではないと考えています、と回答しました。

## 3 維持管理の状況について

- ③定点観測について、沈むのはわかるが膨らんでいるところが 1 か所ある。これはどういうメカニズムなのか。ここに地下水が増えてくると押し上げられるという可能性はあるということか。

⇒定点観測についてはメカニズムまで確認できるものではないが、今回が 1 回目の調査で毎年続けていくため、それでわかることではないかと思いません。地下水が原因かどうかはわかりません、と回答しました。

なお、この原因について、対策工事の設計監理業者に確認しましたが、

まだ1回目の測定であり今後も測定を継続して変動傾向を見ていかないとわからない、との回答を得ており、まずは毎年行うこととしている定点観測の結果を注視していきたいと考えています。

## 5 対策工の有効性および旧処分場の安定化の確認に向けた取組について

④処分場の安定化の確認について、イメージとして、骨折したときに骨がつくまでギブスで固定するが、それと同じように、処分場を遮水壁で囲って中を安定化させようとしていて、治ったときにはギブスを外す、つまり遮水壁を取っても大丈夫だと、そういう状況が安定化だと理解してよいか。

⇒旧処分場の中の浸透水の状況が改善されて廃止基準を満たすようになれば遮水壁を取ることも可能になってまいりますので、そういう状況と考えていただいて大丈夫かと思えます、と回答しました。

## 6 その他

⑤今年度の予定について教えてほしい。

⇒連絡協議会は例年と同じ4回を予定しており、定例のモニタリング結果や維持管理の状況については毎回報告させていただくほか、環境省に承認を得ている実施計画の目標達成の結果を最終回で説明させていただく、また、アーカイブについても作成状況を報告したいと考えています。また、「対策工の有効性の確認」について、本日はキックオフということで概要説明をしたが、アドバイザーの方々のご意見を踏まえ、有効性の確認に向けた評価方法などをご提案してご意見をいただきたいと思っています、と回答しました。